

第二四回大会予告

一月一二日(月)、本年度大会の主催校である山口大学の山本陽三会員が所用で、山形市上市市に來られたので、宿舍のよねや旅館を訪ね、大会開催期日および会場等についての打ち合わせを行なつた。その結果、一応の予定として、

日時 一九七六年一〇月八日(金)・九日(土)

会場 島根県鹿足郡津和野町・町営国民宿舍

ということ、早速予約すること。会員各位の多数の参加が期待される。詳細(変更を含めて)は、次号以降で。

なお、山本会員は、共通課題を「農村生活の歴史と現状——農民にとつての、生活破壊、とは何か——」とした場合、次回の研究会で経済学・社会学の双方の視点から破壊以前の農村生活のタイプとといったものを検討しておく必要があるのではないか、そして、その場合、農村生活を狭い意味での生活に限らず、もつと広く農法・生産組織・生活組織を一体にしてとらえるべきであるとの意見を述べられた。また、生活破壊、近代化とみていいのか、そして、その意味で近代化反対ということが、生活破壊、を掲げる問題意識のなかにはあるのか、そうした見方と現実の農民の意識との間にギャップは生じないものだろうかという意味のことをいわれた。